

Title	摘録
Author(s)	
Citation	地球 (1927), 8(4): 305-306
Issue Date	1927-10-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/183335
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

摘 錄

○小島昌太郎 都市交通機關の選定（大大阪三の八）

近代の都會は都市の中央部が行政及商業地域で其つぎに集約的居住地域があり、其外に散在的居住地域がある。或は工場地となり或は公園となり住宅地となる。之を圍つて郊外地が都市交通の外延地帯となる。舊市街と新市街との境域をなす或地點には必ず遊樂地をもつ。之が又市街交通の中心になる。大都市の交通機關は以上の都市の各地域の連絡を便ならしめねばならぬ。こゝで大都市の交通路線の種類を擧げると半徑線（市外の一地點から市内の一地點、行政區か商業地に至る）直徑線（市内の中央部を横斷する幹線）遠心線（中央部を横斷せずして廻周する一つの小循環線である）環狀線（市の外圍を一周する大循環線）の四つに分類してよい。我國の大都會の路面電車の幹線はいづれも直徑線であるが四様式を適當に組合せる必要がある。交通そのものから見ると、都市には營業者交通がある、買物交通がある、通勤通學交通がある、何れも放射狀に動く、この外に訪問交通がある、散策交通がある、休日に於ける郊外交通がある、これは放射線狀になる。そこで都市は交通網の完成をばからねばならぬが路面電車は建設費が巨費を要して面白くない、殊に大阪で近き將來につくられる御堂筋二十四間道路の如きは、現在の設計では路面の中央に電車を走らすことになつてゐるが如き、以て

の外の計畫である。乗客の乗降に自動車道を横ざる不便がある、路面も無細工になる。電車の代りに乗合自動車にしたい。最近ベルリンの乗合自動車は五十九人乗で、電車とかばらぬ車が歩道に近づいて通るから乗降にも便利である。大抵の國では路面電車が漸次なくなつてゆくのに、今更中央に電車を走らすにも及ぶまいではないか。（F）

○陸軍航空部 空中戰に對しての都市施設

（航空記事、五八）

將來の空中戰に對しては、都市は戰兵と同様に、密集してはあけない。極端に疎開形式をとらねばならぬ、道路及空地の總面積は從來の都市では約三分一であつたが、今後は少とも二分一乃至三分二にする必要がある。又之を個條書にすると左の如くである。

- 一、廣大延長的施設にして統一を與へ堅確ならしめる。
- 二、街道幅の増大、歩道側面の植樹。
- 三、主要街道の方面は主要風向と平行なるべし、これ瓦斯攻撃に基く不良空氣を一掃するためである。
- 四、主要街道の方向は日光の光線は最も強烈にして持續的なを要す、中毒物質を早く散逸せしむるため也。
- 五、街道の新設には出来る限り地形傾斜の方向に順應せしめて以て害毒物質を速かに流水により洗ひ去らしむ。
- 六、街道の方向は成るべく大なる空地殊に天然もしくは人工的貯水池のある地方を通過せしむる、池には噴水設備が必

要である。

七、新地區の境界は一定の計畫に基き、所々に街路で之を横斷せしめる。

八、家屋の建設は街路に近接するを許さぬ。少くとも同じ高さ丈に隔離しあるを要する。

九、前項と同じく隣接家屋との間隔を規正するを要する。

一〇、公園、庭園、芝地、スポーツ場、花壇等は一旦には町村の野菜園に轉用する。

一一、原則として建物の後方に廣大なる空地を挿入せよ。

一二、市内地にある廣大な空地域は常時陸軍に委託して其の使用を隨意とせよ。

一三、都市の外には原則として廣大な地域として空地をつくりおき戦時の用に供せよ。

一四、火災等の偶然の原因で舊い建物が破れて都市内部に空地が出来るときは此に新建築を禁じて市立の野菜園等にすゐる。

一五、櫛比輻輳の地區は舊い家を除去し街路を新設せよ。

一六、國家重要な諸官衙は市の何れの部分にも集中してはならぬ、むしろ極端の分割主義をとれ。

一七、官廳は大なる單一家屋を作つてはならぬ、むしろ小さい分散式にせよ。

一八、特種の規正設備、幾何學的の形を排斥する、線形を不明瞭にして空中よりの望見を困難ならしめよ。

一九、新設都市の地域は深くて四角のある低地は避けむしる

やゝ高くて附近への平原へ下り坂のある地を可とする、森林と水面地に近い方がよい。

二〇、都市の擴張もしくは新設計畫を決定するには常に斯道の學者、軍部代表者の參與を必要とする。

こゝいつたいろ／＼の意見は露國の「ゴジエリニコフ」氏の提言である。將來の空中戦を眼前にして我國の都市はどうであらうか、識者の參考を要する點であらうと思ふ。(F)

新著紹介

○地理學通論

第一冊

理學博士高橋純一著 四六倍判

本文二五五頁 昭和二年三月 東京隆文館發行 定價四圓

高橋博士の地文地理集成は地文學の好き参考書であつたが

之を改訂されたものゝ第一冊が本書である。地理學に對する基礎知識に重きを置き、且つ稍高級な新知識を包含さして地理學最近の傾向を示し、以て受験者の所要を満たすと共に地理教育者の伴侶たらしめんとしたものである。第一冊は星學

地理、天體としての地球及び氣圈地理の三編より成り、地理學に必要な天文學、地球物理學の一部及氣象學を説明してゐる。この第一冊は未だ地文學中の本體に説き進んで居ない爲めに地理學研究の原則だとされる因果の原則や連關の原則が見出される様な説述はなくて一般の叙述が多い。一二の目に立つ誤植？(例へばド・ラ・アランシュの様な)の外極めて誤植の少ないのは初學者に取つて幸なことである。参考文書の